

県本部・活動拠点本部会議(8月5日・夕)議事要旨

■決まったこと

●夜間支援体制の強化(八代：太陽)

・福祉避難所「太陽」において排泄トラブルや夜間トイレへの移動課題(暗がり・距離等)が発生しているため、八代市職員1名・福岡 DWAT 1名の計2名体制による夜勤を継続実施すること。

●環境整備および手すり等の設置(各避難所)

・第一中学校(八代)：高齢夫婦のADL低下に対し、床置きからダンボールベッドへ移行し、JDAT(災害リハビリテーション支援チーム)等と連携して置き型手すりを導入。

・小川防災センター(宇城)：ダンボールベッド導入および区画整理のため、8月6日～7日にかけて避難者を小川中学校へ一時移動・導入作業を実施。併せて手すり設置(JDAT 連携)を検討。

●情報共有・情報システムの導入

・公式HPおよびWebアプリの運用：各拠点の活動日報(PDF)、議事録、各種様式、支援者向け熱中症対策アプリ、労使協の施設間応援派遣状況などを公式HP(オープンチャット等で共有)に集約・一元化。

・D24H(情報管理システム)のアカウント導入：各拠点リーダーがDMAT等の先行入力情報を閲覧・活用できるよう、1拠点1アカウントの権限発行手続きを進める。

●備品・ICT資材の手配

・各拠点へプリンター、モニター、スピーカー、PC(順次配送)等のICT資材を配布・設置する。

1. 各地域からの報告(避難人数、状態、課題等)

●八代地域

①拠点・福祉避難所の体制

- ・トヨオカアリーナ(拠点)：長崎 DWAT 4名+熊本 DWAT 3名(計7名)。
- ・希望の里 太陽(福祉避難所)：福岡 DWAT 5名体制で運用。

②避難所の状況・課題

- ・トヨオカアリーナ

→避難人数約300名(八代市最大規模)。

→状態・対応：コロナ陽性者(1名)発生に伴い多目的室を隔離部屋として運用。TMATが区画ごとに住所(A-1～E-5等)を付与しリスト化。要配慮者向けシャワー浴(15時～16時)を開始(初日7名利用、軽度介助・見守り中心)。

・郡築コミュニティセンター

→避難人数：昼間は約5～10名、夜間は約15～20名(自治体公表数7名より多め、全体として減少傾向)。

→状態・課題：和室でダンボールベッド・パーテーションなし。顔見知りが多く協力体制あり(全盲/視覚障害の方に対し隣人が支援)。

・第七中学校

→避難人数：15～20名程度(昼間は数名)。

→状態・環境：体育館に世帯用テント・ダンボールベッドが早期から設置済みで環境は整備されている。要援護者はほぼ不在。断水状態。

・第一中学校

→状態・課題：高齢夫婦のアセスメントを実施。夫が4日間床に寝て菓子パン中心の生活を送ったことでADLが大幅低下。本人が遠方(講堂等)への移動を拒否したため、ダンボールベッド設置とJDATによる置き型手すり導入により現場での生活環境を改善。

・希望の里 太陽(福祉避難所)

→避難人数：10名(要配慮者6名、家族4名)。本日新たに2名(80代母・60代息子)入所。

→状態・課題：身体介助の必要性は低い、夜間の便失禁・排泄トラブルが発生。トイレまでの距離や夜間の暗さが課題。水道は引き続き断水(職員の入浴は外部施設を利用)。

●宇城地域

① 各避難所の状況

・三隅防災センター

→避難人数：57名(受付確認値)。要配慮者として知的障害者5名(事業所単位で避難)が滞在。

→課題・予定：中国籍の介護職員が血圧160～180と体調不良。多忙による受診困難・薬不足の恐れがあり、DMAT/日赤と対応協議。知的障害者5名は8月12日(または15日)に市内のグループホームへ移動予定。

・不知火(しらぬい)防災拠点

→避難人数：70名(受付確認値)。特養やグループホーム、有料老人ホーム等の高齢者施設利用者が避難所内に多数滞在。

→課題：ダンボールベッド未設置。22時以降の断水により室内トイレが使用不

可。高齢者同士の互助で対応しているが、実態把握と環境再評価が必要。

- ・松橋（まつばせ）中学校

→避難人数：車中泊者は確認されず。

→課題：断水中。70代女性が指を切創し消毒できず腫れが発生。DMATへ対応を相談。

- ・小川防災センター

→滞在者・支援：D-CAT、大分DWAT（2名）が介入。

→感染・衛生：トイレの感染対策、洗濯ニーズへの対応（洗濯支援車両の未到着）。

★ケース1（88歳男性・在宅）：酸素飽和度低下、本人・家族の介護負担増。介護保険未申請（医療訪問介護のみ）。入院または福祉避難所への移行を協議。

★ケース2（90代女性）：ステージ1の褥瘡発生。長時間座位による影響のため福祉用具（クッション等）検討および担当ケアマネジャーへ情報共有。

★ケース3（20代夫婦・6歳児）：両親にうつ病あり、個室に滞在。自宅のペット（猫）避難トラブル等あり。DPAT（災害派遣精神医療チーム）へ情報共有。子供のメンタルフォローを継続。

●氷川地域

- ・氷川町公民館（福祉避難所/一般避難所）

→避難人数：39名（夜間に+2名、翌朝に+2名予定で40名超の見込み）。定員飽和状態。

→状態・要介護度：介護認定の有無にかかわらず、体調・体力低下者多数。一部は同じ町内の特養（早生園等）へ移送調整（2名移動完了）。外部の在宅サービス（通所介護・訪問看護）が一部再開し、利用を開始。

→食事・栄養：常食が困難な方や義歯紛失者が存在。柔らかい物資の選定や形態調整で対応。学校給食等の温かい食事供給ルートは未確立。

→人員不足：運営スペース・人員ともに限界に近い。体制強化が急務。

2. 確認事項・共有事項

●避難所間の環境・物資格差

- ・避難所によって食事（3食菓子パンと水のみ）の地域がある一方、唐揚げ等の惣菜が届く地域もある）や設備に大きな差が生じている。

●医療・保健機関との連携状況

- ・地域の診療所は概ね開院・再開しており、DMAT・保健所が医療ニーズや薬の確保、施設把握をコントロールしている。

●アセスメント記録の充実（ラピッドアセスメント）

・避難者のスクリーニング時に見立てや今後の方向性（福祉避難所移行、在宅復帰等）を「避難所調査票（F）」の備考・特記事項欄へ確実に記録・集積する。

●車中泊者調査の検討

・熊本地震の知見を持つ NPO 法人（熊本の実り等）から車中泊実態調査票の提案あり。現場負担に配慮しつつ、該当者が発生した際のアセスメントツールとして活用を検討する。

●アレルギー対応食の備蓄

・アレルギー対応食等の特別な配慮が必要な食事物資を手配・確保中。必要事例があれば本部・拠点へ展開する。

●交通・移動状況

・熊本市内から八代方面への移動は、道路の隆起や迂回路の混雑等により片道約 1.5～2 時間半を要する。

3. 今後の方針

●避難所環境の改善と個別支援の推進

・小川防災センター等でのダンボールベッド大量導入とそれに伴う一時避難・区画整理の実施。

・JDAT（リハビリチーム）等と連携した福祉用具（手すり・クッション等）の迅速導入。

・褥瘡・在宅酸素・精神疾患・傷病を抱える要配慮者に対し、DMAT、DPAT、ケアマネジャー、福祉施設等と連携した個別調整の継続。

●福祉避難所のキャパシティ調整および施設間連携

・氷川町公民館等の定員超過に伴い、近隣特養や地域事業者への移送・受入調整を継続実施。

・地域の通所・訪問等在宅福祉サービスの積極的な活用による支援負担の分散。

●他県 DWAT の受入・受援体制の整備

・大分 DWAT、長崎 DWAT、福岡 DWAT 等に加え、今後順次到着する他県 DWAT 派遣チームの交替・引継ぎ（引き継ぎ期間の確保）と円滑な人員配置。

●情報共有基盤（READ24H・HP）の活用

・公式 HP での日報・議事録・様式の更新を継続。

・各拠点への PC・プリンター等の環境整備を速やかに行い、READ24H アカウントの発行・活用を進めることで、DMAT 等医療チームとのリアルタイムな情報共有を確立する。